
「医学会の意思決定組織における 女性登用についての調査アンケート」 結果報告書

2021年3月

一般社団法人日本泌尿器科学会
ダイバーシティ推進委員会

医学会における女性登用の現状調査

【目的】

人口減少時代の日本社会において、一層の女性の参画・活躍は喫緊の課題である。日本泌尿器科学会では過去女性会員および指導的立場世代の女性の人数が少なかったこともあり、女性理事や代議員が誕生しにくく、現在もその状況が続いている。しかし近年の女性学会員および指導的立場の女性医師数の増加を踏まえると、意思決定組織に女性が加わり、学会として今そして将来の人材の多様性を担保することが重要と考えている。一方、内閣府男女共同参画局は2003年に「社会のあらゆる分野において、2020年までに、指導的地位に女性が占める割合が、少なくとも30%程度になるよう期待する」という目標（通称「202030（ニーマルニーマルサンマル）」）を掲げたが、そのためには一定の範囲で特別な機会を提供するポジティブ・アクションが重要としている。そこで医学会における基本領域学会および既に女性の積極的な登用を行っているとの情報を得た学会に対して、理事/役員、代議員/評議員における女性の登用がどのような状況であるのか、また、ポジティブ・アクションを行っている場合、それによる学会内の変化があったのか等を参考にさせていただければと考え、アンケート調査を実施した。

【対象と方法】

2020年10月、女性登用に関する以下のアンケートを本委員会で作成し、下記医学会に対して文書で送付し回答を得た。

・日本泌尿器科学会を除いた14の基本領域学会；

日本内科学会、日本小児科学会、日本皮膚科学会、日本精神神経学会、日本外科学会、日本整形外科学会、日本産科婦人科学会、日本眼科学会、日本耳鼻咽喉科学会、日本脳神経外科学会、日本医学放射線学会、日本形成外科学会、日本麻酔科学会、日本病理学会

・過去にポジティブ・アクションを行っているとの情報を得た7学会；

日本生理学会、日本薬理学会、日本癌学会、日本消化器病学会、日本循環器学会、日本小児外科学会、日本心臓血管外科学会

《医学会の意思決定組織における女性登用について調査アンケート》

Q1 貴学会員の、女性医師数を教えてください。

2014年 学会員数： 女性医師数：

2020年（月現在） 学会員数： 女性医師数：

Q2 貴学会の役員（理事等）、評議員（代議員等）数、女性数を教えてください。

・役員・理事

2014年 役員・理事数： そのうち女性数：

2020年 役員・理事数： そのうち女性数：

・評議員（代議員）

2014年 評議員（代議員）数： そのうち女性数：

2020年 評議員（代議員）数： そのうち女性数：

Q3 貴学会の役員、評議員（代議員）選出に関して、クオータ制（割当制）等、女性医師へのポジティブ・アクションはございますか

- a. ある
- b. ない

Q4 Q3 であると答えた場合、

・導入時期を教えてください（ 年）

・女性枠の数について

・導入時の数

・現在の数

副理事長・会長（ ）

理事（ ）

代議員/評議員（ ）

・導入方法について

- a. 選挙制度を変えた
- b. 理事長が直接任命した
- c. 立候補者を全て登用した
- d. その他（具体的に）

・導入後の学会の変化について感じられるものがあれば選択下さい

- a. より一層女性が活躍するようになった
- b. 特に変化はない
- c. むしろ他の女性が登用されにくいという声がある
- d. わからない
- e. その他（具体的に）

【結果】

- 基本領域学会における女性会員の比率は 10%未満の 3 学会（日本外科学会、日本整形外科学会、日本脳神経学会）から、30%以上の 6 学会（日本小児科学会、日本皮膚科学会、日本産婦人科学会、日本眼科学会、日本形成外科学会、日本麻酔科学会）と様々であった。（図 1;基本領域学会における女性会員数比率の推移）
- ポジティブ・アクションを行っているとは回答したのは 14 学会中 9 学会であった。
- 役員/理事枠のみに女性枠を設けているのが 5 学会（日本小児科学会、日本皮膚科学会、日本外科学会、日本耳鼻科学会、日本病理学会）、代議員/評議員枠のみに設けているのが 2 学会（日本内科学会、日本形成外科学会）、両方に設けているのが 2 学会（日本精神神経学会、日本麻酔科学会）であった。
- 2020 年の役員/理事数は中央値 23 名(18-28 名)であり、うち女性役員/理事は中央値 1 名（0-7 名）であった。日本麻酔科学会のみポジティブ・アクションの導入後に 30.4%の理事を女性が占めるようになったことが伺え、内閣府の「2020 年 30%」の目標値を達成していた。女性役員/理事不在の学会も 4 学会あり、日本泌尿器科学会を含めた 5 学会ではさらなる女性活躍推進が望まれる。（表 1; 基本領域学会における女性理事・役員数一覧）
- 女性枠による代議員/評議員数は 10 名が 2 学会（日本精神神経学会、日本形成外科学会）、10 名+aが 1 学会（日本内科学会）、45 名が 1 学会（日本麻酔科学会）であった。日本内科学会以外の 3 学会は 2015 年以降に代議員/評議員に女性枠が設けられていた。2020 年の女性代議員/評議員の比率について、5%以上だったのが 10 学会(71.4%)であった。（表 2;基本領域学会における女性代議員・評議員比率の変遷）
- 女性枠の導入方法について、基本領域学会のうちポジティブ・アクションを行っているとは回答した 9 学会中 5 学会で「選挙制度を変えた」を、1 学会は「理事長が任命した」、3 学会は「その他」を選択していた。その他、代議員選挙の際に女性の立候補を促すものや、推薦評議員のうち最低でも 1 名は女性にするなど、それぞれ工夫して女性の積極的な登用を行っていることがわかった。
- 女性枠導入後の変化として、既に女性の積極的な登用を実施していた 7 学会のうち 3 学会では「女性が一層活躍した」を選択していた。その他、学会としてのダイバーシティの取り組みが可視化されるようになった、種々の委員会で女性の活躍が見られるようになったなどの意見があった。一方で女性登用に對するネガティブな回答は認められなかった。

図 1 基本領域学会における女性会員数比率の推移

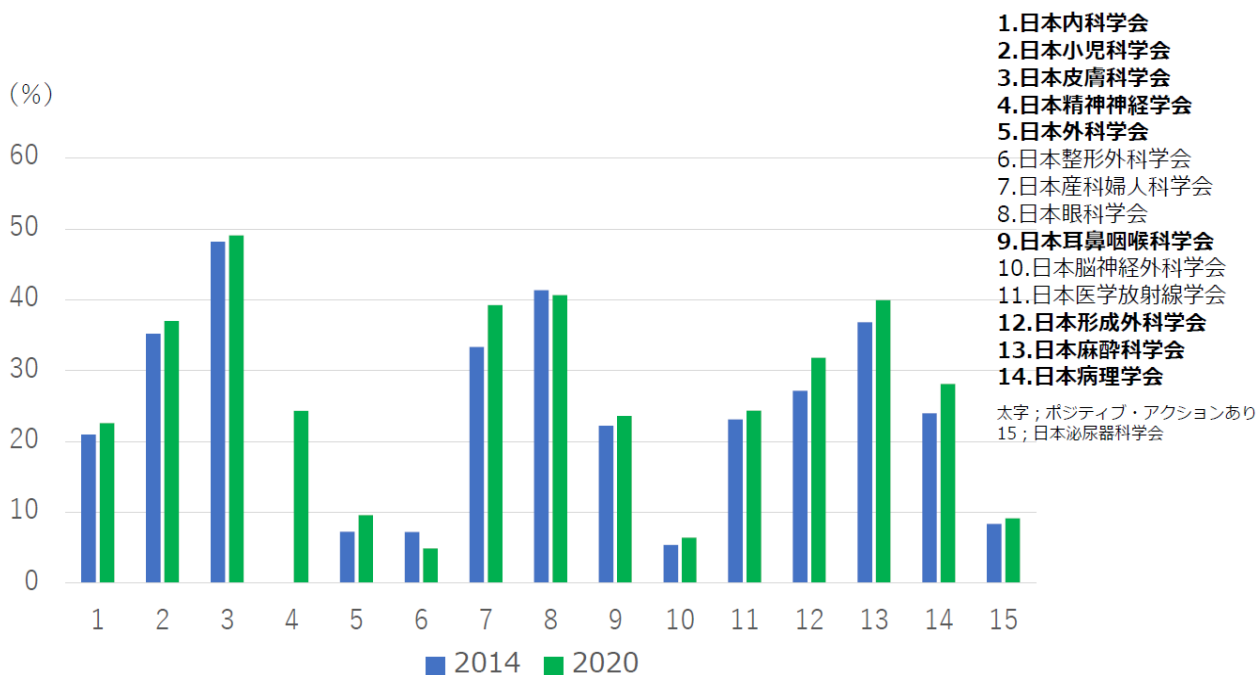


表 1 基本領域学会における女性理事・役員数一覧

No	学会名	2014 年役員/理事			2020 年役員/理事		
		全体	女性医師(%)	女性枠	全体	女性医師(%)	女性枠
1	日本内科学会	22	0(0)	0	23	1(4.3)	0
2	日本小児科学会	21	1(4.7)	0	25	2(8.0)	1
3	日本皮膚科学会	18	1(5.5)	0	18	2(11.1)	1
4	日本精神神経学会	20	0(0)	0	20	1(5.0)	1
5	日本外科学会	23	0(0)	0	25	2(8.0)	2
6	日本整形外科学会	20	0(0)	0	20	0(0)	0
7	日本産科婦人科学会	28	1(3.5)	0	28	1(3.5)	0
8	日本眼科学会	18	0(0)	0	18	3(16.6)	0
9	日本耳鼻咽喉科学会	26	1(3.8)	0	24	1(4.1)	1
10	日本脳神経外科学会	23	1(4.3)	0	23	0(0)	0
11	日本医学放射線学会	16	0(0)	0	18	0(0)	0
12	日本形成外科学会	17	0(0)	0	17	0(0)	0
13	日本麻酔科学会	20	1(5.0)	0	23	7(30.4)	4
14	日本病理学会	21	0(0)	0	22	1(4.5)	1
15	日本泌尿器科学会	17	0(0)	0	17	0(0)	0

表 2 基本領域学会における女性代議員/評議員数一覧

No	学会名	2014 年代議員/評議員			2020 年代議員/評議員		
		全体	女性医師(%)	女性枠	全体	女性医師(%)	女性枠
1	日本内科学会	642	30(4.6)	10+ α	682	61(8.9)	10+ α
2	日本小児科学会	583	50(8.5)	0	583	84(14.4)	0
3	日本皮膚科学会	300	38(12.6)	0	300	49(16.3)	0
4	日本精神神経学会	147	4(2.7)	0	149	10(6.7)	10
5	日本外科学会	344	1(0.2)	0	338	3(0.8)	0
6	日本整形外科学会	252	0(0)	0	271	2(0.7)	0
7	日本産科婦人科学会	368	20(5.4)	0	368	31(8.4)	0
8	日本眼科学会	92	8(8.7)	0	92	9(9.7)	0
9	日本耳鼻咽喉科学会	288	9(3.1)	0	293	14(4.7)	0
10	日本脳神経外科学会	298	2(0.6)	0	328	4(1.2)	0
11	日本医学放射線学会	250	不明	0	246	17(6.9)	0
12	日本形成外科学会	150	4(2.6)	0	160	16(10.0)	10
13	日本麻酔科学会	271	18(6.6)	0	337	66(19.5)	45
14	日本病理学会	1392	219(15.7)	0	1284	284(22.1)	0
15	日本泌尿器科学会	186	1(0.5)	0	214	1(0.4)	0

【考察】

基本領域学会の多くで近年ポジティブ・アクションが実行され順調に推移していることが伺えた。日本麻酔科学会のみが内閣府男女共同参画局が推進する「2020年30%」の目標値を達成できており、女性活躍推進が他学会よりも一足先に進んでいると言えよう。残念ながら現時点では日本泌尿器科学会における女性枠の導入は実現できていないのに加え、代議員/評議員では2014年よりも女性の比率が下がっている唯一の学会であった。引き続き多様な人材の確保が必要であることを、日本泌尿器科学会理事会および学会員にも訴えていきたいと考えている。

【謝辞】

お忙しいところ本アンケートにご協力下さった各医学会の関係者の皆様に、厚く御礼を申し上げます。どうもありがとうございました。

日本泌尿器科学会ダイバーシティ推進委員会

宮澤克人、永井 敦、舛森直哉、佐々木ひと美、高橋さゆり、前田佳子、西田幸代、
松下千枝、樋口はるか、山本恭代、小林知子、増田朋子、川崎麻己、木村友和、吉川武志